

目次

- よりそいのかたち / 松井 吉光
私の選択 / 大島 康司
Mixed Marriages Lead to Better Understanding / Grace Devaux
「よりそいのかたち」学生座談会
最近の映画から ～よりそいのかたち～
ほしい本は買きましょう！ ～本屋に無い本を買うにはどうしたらいい？～

よりそいのかたち

教養学科 講師 松井吉光

みなさんは結婚についてどうお考えでしょうか？学生の方は結婚に対してあこがれをもったりされているのではないのでしょうか。私自身はというと、二十歳の頃を振り返ってみても「結婚に対して何も考えていなかったなあ」と印象しかありません。それが結婚する直前まで続くわけですから、のんきなものです。そもそも自分が結婚できるなんて思ってもみなかったのも、その「かたち」に関してまったく想像もしていませんでした。ですから「かたち」についてほとんど考えていなかったのも、「かたち」について結婚が決まりそうになった頃になってあわてて考え始めたというのが実際のところですが、ここではそこで考えたこと、そしてこちらの期間の方がもうずっと長くなってしまっているのですが、結婚生活を送る上で心がけていることを紹介したいと思います。

結婚というと現在の日本では「制度上」、婚姻届を役所に提出し、一夫一婦制で、どちらかの姓を選ぶという「かたち」しかありません。事実婚・同棲というのは「制度上」結婚と区別されますし、民法改正が行われていない現状では「制度上」夫婦別姓は選択できませんし、日本では一夫多婦、多夫一婦は認められないでしょう。しかしそれはあくまで「制度上」の話であって、「かたち」としてはいろいろな選択肢があります。

ではなぜ、普通の「制度上」の結婚を選択したかということになるのですが、その理由の一つは両方の親に認められる「かたち」であったということです。結婚そのものは基本的に2人でできます（もちろん制度上はあと2人、保証人が必要です）が、その後の生活を送るためにはどうしても周囲の協力は不可欠です。その最も身近な周囲といえは何と言っても親ですから、どうしても両方の親の承諾を得たいと考えたわけです。もう一つの理由としては、両方とも将来子供が欲しかったということがあります。「制度上」認められていない「かたち」を選択する場合に、子供を持つとき、どちらの籍に入れるかとか色々考えないといけない事がありそうだったので、できるだけそうした面倒な事を避けたかったということです。それ以外はというと、いろいろ考えてはみたのですが、他の「かたち」を選択してもあまり支障がありそうなことは見出せませんでした。生活していく上で、健康保険や年金に関することも考えておかないといけないのですが、お互い働くことを考えていたので、その場合は「制度上」の結婚を選択しなくても大きな問題にはならないみたいでした。あとは、両方とも「かたち」にこだわりがなかったというのも理由とし

てあげられるのですが、結局のところこれが選択の最大の理由だったかも知れません。

結婚というのは相手を見つけるのは難しいですが、見つかってしまえば実際にするのはとても簡単な気がしました。婚姻届を提出に行った時、あまりのあっけなさにまったく実感が湧かなかったのを覚えています。結婚するというより、その後の結婚生活の方がずっと大変だというのが、実感です。お互いこれまで育った環境がまったく違うわけですから、習慣や考え方が異なるのは当然で、そこをうまくやっていくのはそれなりの苦勞がありました。そこで結婚生活を維持していく上でお互いが大切にしていることということになるのですが、それは「感謝の心」を持ち続けるということです。これは私が子供の頃からずっと言われ続けたことなのですが、結婚生活においてもとても重要なことだと思っています。しかし、これをずっと持ち続けるということはそう簡単なことではありません。結婚当初は食事を作ってもらっただけでも自然と感謝の気持ちが湧いてくるのですが、次第にそれが当たり前状態になってくるとなかなか感謝の気持ちを保ち続けるのは難しくなってきます。感謝の気持ちを伝える言葉に「ありがとう」という言葉がありますが、この言葉は「有難し」という言葉から生まれたと言われていています。「有難し」という言葉の意味は「めったにない」ですから、その反対は「当たり前」となります。ですから、感謝の気持ちを保ち続けるには「やってもらって当たり前」だと思わないこと、これが重要です。感謝する気持ちを忘れそうになったとき、このことを思い出しながら何とか結婚生活を送っております。

以上が少ない私の経験の中で学んだことですが、学生の皆さんが今後のことをいろいろ考えるときの参考に、少しでもなればと思います。

私の選択

教養学科助教授 大島 康司

私はずぼらである。しなくてはいけないことを増やすことを避けてきた。一人暮らしをしていた頃は、一年中扇風機やファンヒーターが部屋に置いてあり、洗わなくてはいけない食器などはほとんど置かず、食事は外食か弁当で済まし、洗濯物も増やさないように同じ服を何度も着ていた。そんな私であるので、しなくてもいいことにまで手を出すことはありえない。その一つの例が結婚である。

結婚が必要でないというのは、自明のことと思っていたのであるが、私の知り合いにもそれらしい人が見当たらない。もしかしたら、この人たちは結婚していないのかな、と思う一組はあるのだが、もとの姓が同じなので判断できない。したがって、私の身近な範囲では結婚しないという選択をしているのは私と同居人の一組ということになる。そうすると私の考え方は間違っているようにも思う。また、不必要なことであっても適当に済ませておけば良いこともあるのは事実である。しかし、そうしてはいけないこともある。その一つとして私は結婚を数えているということだ。ただ、残念ながらずぼらであると同時にいい加減という特性も私は持っている。いつ考えが変わるかは責任が持てない。

私の同居生活は純粋に経済的な事情に基づいていた。もちろん恋愛感情を前提としてはいる。その上で一人暮らしをしている両者が、別々の部屋に住むことと二人で一部屋に住むことの長期的な損得勘定をした結果だ。ただし、社会的な側面も考慮してこの同居が事実的な結婚であると宣言した。したがって法律上には完全な他人である。そうだとすると、法律上の結婚とほとんど異なることはない。

法律上の結婚と違いが出てくるのは、同居人に職がない場合、両者間に子どもができた場合、どちらかが死亡した場合と考えられる。私は同居人が直接的な収入のない職業にあることを認めない。経済的に自立していない関係では、依存と被依存の関係が生まれ、不必要なことを為す必要が格段に増えると考えているからである。したがって、この点において同居人に職がない場合はもともとから考慮する必要がない。

次に子どもの存在である。ずぼらでいい加減、そして偏執的な傾向の強い私には人の人生を生まれた時から規定することになる可能性のある大役は荷が重く、そこまでの責任を持ちたくないと考えている。まして、食料は不足し、社会は混迷を深め、再び悲惨な時代を迎えようとしているこの時期に子どもを世

に送り出すこと責任について判断する能力もない。そういう意味で子どもができるということも考えなくていいだろう。

最後に、どちらかが死亡した場合には相続の問題が生じるが、この場合にもおそらく事実上の配偶者として互いに相続の権利が生じると考えられ、法律的な結婚の有無は関係ない。そうすると相続の問題もなくなる。

以上のことから、法律的な結婚は私にとってはまったくの不要なことになる。事実上の結婚も不要であるとは感じているが、そうもいってられない部分もある。また、もしそのようなことに対する周囲と当事者の寛容がなければ、あるいは私も法律的な結婚を選択したかもしれないが、現時点ではそれほどの圧力も感じていない。遠くない将来において圧力が増すことが予想されないでもないが、その前に孝行息子らしく結婚式ぐらいはしておいた方がいいのか、と考えるぐらいには私も寛容になったと思う。その時には、もう一つの私の特性である場当たりで凌ぎたいと考えている。あるいは、国民の下僕たる公務員の長が「お願いします」ときたら考えてもよいかと思う。私にとっての結婚とはそのようなものだ。

Mixed Marriages Lead to Better Understanding

教養学科 招聘助教授 Grace Devaux

My parents, both having Japanese ancestors expected that I might marry a Japanese Canadian. As I knew very few boys with this background it was a very unlikely possibility. Although my family was a minority in the small Southern Alberta farming community I grew up in, I did not feel the prejudice that my mother, who was born in Canada, felt as she grew up during the war years. In spite of suffering from losing their homes and most of their belongings and being moved like criminals to the interior of Canada, my parents never pressured us children into marrying a “Japanese” person.

So as most other Canadians, I could choose my own mate. At the age of twenty-seven, I married a young man who came from France. My marriage to Michel opened a whole new world to me. I met his family, who all live in France and learned about another culture, another language, expanded my family and enriched my life. This marriage lasted eight years and ended suddenly with his death. However, by my most recent visit last year to his family, I was able to converse quite easily in French with them. From this marriage I have two daughters. Melanie attended a French immersion classes and is quite fluent in French while Keiko came to Japan on a student exchange and also spent four months with us in Japan and has learned quite a bit of Japanese.

A few years after losing my first husband, I met another man to share my family and life, another non-Japanese person. He is my current partner, Garth, who is a third generation Canadian with Anglo-Saxon roots. He comes from a large family who live near our home in British Columbia. As any family, we don't always agree and get along, but we often get together with his family for traditional celebrations. I feel fortunate to have a husband and son who were willing to come to Japan with me to learn about my Japanese heritage and to enjoy Japanese life. Now our son, Quentin has learned to communicate with his Japanese friends and my Japanese skills have really improved. We have also met some very kind people in Japan and made some very good friends.

Canada is a country full of immigrants from many countries. The many cultures enrich our

lives and open our eyes to different ideas and ways of living but we are not free of the problems of prejudice. For example: the way the aboriginals have been treated and the historic conflict between the French and English still exist. At the same time, the government has formally recognized the unjust treatment to the Japanese Canadians during the war. Mixed marriages are common in this young country and I think of it more as a bridge than a barrier to communication and understanding.

「よりそいのかたち」学生座談会

「よりそいのかたち」をテーマに12月18日(木)と1月8日(木)の2日間、学生にお昼を食べながらおしゃべりしてもらいました。12月18日の参加者は齊藤君、滝澤君、出口君、野村さん、服部さん。1月8日、出口君はひどい風邪のため、齊藤君は就職の面接が急に入ったため欠席。滝澤君、野村さん、服部さんに吉永君、角谷さんが加わって行われました。

男子学生： 齊藤俊、出口健太、滝澤久志、吉永享史

女子学生： 野村菜都実、服部郁恵、角谷妙子

司会： 山形容子

<子供はほしいか？>

司会 女性から男の人に聞きいてみたいことはありますか？

女子1 今現在、すぐにでも子供が欲しいと思いますか？

男子1 自分は幼児教育を勉強しているけど、他人の子と自分の子はまたちがうしな一。小さい子って1歳くらいが特にかわいい時期だけどすぐ大きくなって憎たらしいこともうようになるし。今、やりたいことがいろいろあって、自分のことで手いっぱい、子供を持つのはちよつと無理だと思う。子供がいれば時間も制限されるようになるし。

男子2 自分は今はやってみたいことがたくさんあって、学生の今だからやれることをやりたいです。子どもがいたらお金だってほとんど自分の自由に使うことはできないし、自由もきかないし。家族ができたら、自分のためにだけ時間やお金を使うわけにはいかない。

男子3 今、子供を持つのは自分もちよつと... 経済力も無いし、子供がいたら時間もなくなって遊びに出かけたり出来ないし。

司会 いま子供がほしいかと聞かれてもイメージできないよね。では、もう一生子供は欲しくないということなのか、もう少し年もとって収入もできたらいつかは子どもがいたらなというのではどっちですか？

男子3 長い目でみたら子どもはほしいです。学園祭の時に駄菓子屋さんをやったんですけど買いにきてくれた子どもと広場で遊んで楽しかった。子ども好きですし。

司会 じゃあ、もし、今つきあっている彼女に子どもができちゃったら？

男子3 え一つ。そうになったらもう、覚悟を決めます。自分の時間がなくなるとか経済力とかいった問題もありますが、子どもが生まれるまでには自分でできる限りの努力をしてなんとか生活できるようにするしかないですね。墮せなんて言えませんし。

一同 おおっ、えらいねー。

司会 それでは、女性のみなさんは子供についてどう思いますか。

女子2 自分は子どもを育てる自信がまだないです。友だちや知り合いが子どもを連れて遊びにくることもあるのですが、机の角に頭をぶつけてけがをしてしまいそうで見ているのははらするし緊張するし。料理を作って食べてもらうのとかは大好きですけど。

女子1 両親を見ていると、子どもがいると色々なものを犠牲にしているんだろうなと思わずにはいられないです。親にはあまり友達もいないし。

司会 そうですか。でも、お父さんやお母さんは仕事もあるし、家庭もあるし、家事や親戚つきあいかいろいろあって忙しいし、お母さんやお父さんのお友だちもやっぱりいろいろ忙しいことがあると思うから、学生のような友だちつきあいはできないけれど、きっとお友だちがいると思いますよ。

女子1 そんなことないです。不器用な人たちで友だち、いないみたいです。

<結婚についてどう思うか>

男子4 結婚したくない。自由になりたいから。そして、親を見ていると結婚するといやだなと思う。毎日、離婚したいってオレにグチを言ってくるから。自分はそういうのはいやだから、子どもは欲しいけど、相手(妻)は要らないと思う。

男子1 男でそれはめずらしいよな。

司会 シングルファザーになりたいということでしょうか。幼児教育の観点で見てそういうのはどう思いますか。

女子3 経済力があって、子どもが好きで、育てる力があればいいとおもう。

男子1 幼稚園に行けば女の先生ばかりだから、母親のかわりはいるしね。

でも将来、結婚しないからって一人ということはないので、よりそいとはちょっと別の方向かも知れないけど、友達とかでもいいから、つねに人とは関わって生きていきたいし、生きていくなきゃいけないと思う。そのなかでまたよりそいのかたちを見つけていけばいいかなと思います。

結婚しちゃうと生活縛られると言うのか、家族のためにがんばれると言う面もあるけど、家族のために犠牲にしなければいけないということがあると思う。家族がいると仕事をやめるわけにいかなくなるし。仕事をどこまでやっていくのか、どんなことをやっていくのかとか。自分は常に攻めの姿勢で仕事をしたいと思っています。でもまだ仕事していないから、それがどの程度かということがわからないし。結婚してから仕事をやめちゃったら相手もかわいそうだし、かといって離婚っていてもこの時代そんなにきれいに別れられるとも限らないし、離婚してからだって現実的には慰謝料とかを払っていかなくちゃいけないだろうし。そういうことを考えると社会に出てからある程度めどがついてからじゃないと結婚できないかなと思う。

<国際結婚ってどう？>

司会 今回の図書館だよりにエッセイをお願いした、カナダから来ているグレイス先生は日系の方です。カナダは移民の国なので、グレイス先生の死別された旦那さまはフランス系の方、今の旦那さまはアングロサクソン系の方だそうです。同じ日本人同志でも結婚して生活していくと文化の違いを感じる人が多いと思うのですが、外国人だともっと違うとおもいますが国際結婚なんてどうですか？してみたいと思いますか？

女子1 考えられない。どっちかの国に住むか、選ばなきゃならないことが申し訳なくて。

男子4 違いが大きければ受け入れられそうな気がする。

女子3 なまじちょっとの違いだときになるけど、はじめから違うって言うのがわかっているから、違うと思っていなかったのに小さい違いがわかるとイライラするっていうのは無いと思う。

女子1 自分はだめですね。日本人がいいですね。日本人の独特な文化が好きなんです。日本人のちょっと遠まわしで屈折したものの言い方が好きなんです。京都の人の物言いみたいな。そして、お互いの間でいろいろ役割が変わるのが好きなんです。たとえば、時には恋人で時には母親とか。共通の文化がないとそういうのはできない気がします。私は、本心と違うことを言ってもわかってくれる人じゃないとだめなんです。そこに優しさを感じるんですよ。

男子4 ぼけとつっこみじゃないの？

男子1 ぜんぜん違う！ やめて、雰囲気こわすの！

<どんな人が好み>

司会 みなさんはどんなタイプの異性が好みなんですか？

女子2 好みの異性と好きになる異性はちがうじゃないですか。でも好みをしいう言うなら、「やるときはやる人」とかでしょうか。ふざける時はふざける。行動力があってメリハリをつけられる人がいいです。全部中途半端なのはイライラしますね。

男子1 小学生からの友人を見ていると、一貫したこのみがあるわけではないと思う。好きになった人が好みだと思う。男同士で「あの子かわいいな」とか言っても、顔立ちの好みと合う子は全然違うし。
人間をちゃんと見て好きな所、嫌いな所がわかるとその相手だけじゃなく、いろんな人のいいところ嫌いな所が解って、またどんどん好きな人間が増えてくと思う。

女子3 いちばんいいのは自分と価値観があう人といっしょにいるのが一番だと思うけど、全部一緒っていいことはないことだから、違う価値観でも受入れるようにしたいし相手も受入れて欲しい。

男子4 フィーリングでしょう。

男子1 そういうのって友達選ぶのとたいしてかわらんでしょう。

<どんな老人になりたい？そして、よりそいのかたち…>

男子4 「よりそいのかたち」というテーマって、おじいさん、おばあさんの老後の話題かと思っていた。

司会 それじゃあ、自分はどんなおじいさん、おばあさんになりたいですか？そのときの「よりそい」ってどんなふうにとらえますか。

女子2 カッコいいおばあさんになりたいです。自分から自主的に、今日はダンスの日だからとか今日はお茶会にとか、近所の人とウォーキングとか、なにかに輝いているおばあさんになりたいです。

女子1 「気づいたら人がいた」がいいです。

男子4 ロマンだね。おれ、どうしよう。もうちょっときれいにまとめよう。

女子1 自分は自然体でいて、類は友を呼ぶじゃないけど居心地のいい人が集まればいいと思います。年をとっても。

- 女子3 こどもとか孫がいたとしたら、子どもや孫に役に立つおばあちゃんになりたいと思います。おばあちゃんいていいなとおもえるおばあちゃん。子どもが仕事していたら孫のめんどろ見て、できるだけ元気でいて、できるだけ迷惑かけない。子どもや孫のためがんばれるおばあちゃんになりたいです。
- 男子4 年取ったらひとりでひっそりで暮らしたい。山の中で隠居したい。呆ける姿を人に見られるのがいやだ。よりそいを何に求めるかっていうことで、自分は自然とかに求めたい。これから考えが変わっていくのかもしれないけど。
- 女子1 わたしはひきこもりたい。今、本をすごく読みたいんですよ。でも時間がない。何時間でもひきこもりたい。
- 男子1 今、ひきこもりたくないじゃないのかな。そういうタイプは年取ってから動いておけばよかったと思うんじゃないの。
- 女子3 やりたいことは今やっという方がいってことですか？
- 男子1 今がんばって時間作って読んでもいいし、無理して時間作って読まなくても本当に読みたかったらきつとつか読むと思うし。時間がたって、今まで読みたかったのに読みたいと思えなくなったらそれはそれでいいと思うし。でもほんとに今忙しいね。
- 女子1 自由奔放に生きられたらいいんだけど、自分の好きなことはできないかもしれないじゃないですか。世界旅行に出かけるとか、写真を撮ってまわるとか。
- 男子4 ぼくはじいさんになっても、パソコンとかゲームはやっていきたい。テレビゲームが大好きだから。
- 司会 テレビゲームで遊ぶおじいさんって今のおじいさんからは想像できないけど、50年後はそうなるね。
- 男子1 普通になるんじゃないですか。今のおじいさん、おばあさんを基準に自分をあてはめるからずれができてきて将来の見方も変わってくるかもしれないけど、年を取ることがイコール何もできなくなるっていうのはおかしいと思う。それぞれ個人の日々のおくり方だと思う。例えば脇坂先生とか見るとすごい動いているし、50才だけど体力診断30才だったらしい。そう考えると自分でもって行くしかないと思う。引きこもってほけない方法も絶対あると思う。自分達が老人になる時は今のお年よりの人たちの生活とは絶対ちがっていると思う。よりそいのかたちにしても、個人差があると思う。例えば自分の祖父母は亭主関白で、今風に言えばそんなのよりそいじゃないっていうかもしれないけれどそれも1つの形だし、今風のカップルみたいな互いに趣味をもちながらっていうのもよりそいだと思うし。個人個人でよりそいのかたちをみつけていけばいいと思う。
- 女子3 結婚したいです。結婚してずっといっしょにいたいとおもいます。で、仕事もずっと続けていきたい。どんな風かっていうのは考えていないけど。わからないけど。ちょっと合わないなって思っても我慢してずっといっしょにいたいと思う。違いを乗り越えていきたい。
- 司会 どうもありがとうございました。そろそろ時間ですのでここで終わりたいと思います。みなさんが結婚に対して抱いている不安や希望、仕事や子供、老後のことを同じくらいあるいはそれ以上に重視しているのが感じられました。本当に恋愛や結婚よりも、もっともっと大事で考えることは多いですね。
- 女子 それも個人によるので、結婚や恋愛が一番っていうのもアリです。

最近の映画から ～よりそいのかたち～

愛しのローズマリー

付合う相手の基準は顔とスタイルだけというハルは美人を追い回してはふられる日々。そんなある日、偶然知り合った催眠術師から心の美しさが姿かたちに見える催眠術をかけられてしまう。そして、果てしなく太った心の美しいのローズマリーと恋に落ちてしまった。どうなる二人... ? 「メリーに首っつけ」を監督したファレリー兄弟の作品。

男が女を愛するとき

パイロットのマイケルは2人の子どもがいる教師アリスと恋に落ち結婚する。自分の家庭は何の問題も無い幸せな家庭だと思っていたマイケルは、ある日アリスがアルコール中毒になってしまっていることを発見する。ヒステリックになりそうな自分を抑えて献身的に妻を愛するマイケルとそんな夫の姿にますます追い詰められていくアリス。夫婦の絆、家族の絆を考えさせられる作品です。

マイケルをアンディ・ガルシアが、アリス役をメグ・ライアンが演じ、暗くなりがちなテーマをキュートに見せている。

ロザンナのために

イタリアの小さな村の食堂を営むマルチェロの妻ロザンナは心臓の病気で、明日をもしれぬ命。彼女のたった一つの望みは、幼くして死んだ愛娘のとなりに葬られること。村の墓地は隣接する大地主が土地を譲らないために残りわずか3人分。死人を出さないために交通整理をし、病人を元気づけに出かけ、マルチェロはとにかく忙しい。

大地主は、恋人のロザンナにはふられ、自転車競技では負け、マルチェロにはこころ一番というところでことごとく遅れをとっているのがやしくて嫌がらせをしていたのだった。

こういう役を演じたら当代一のジャン・レノがマルチェロを、マーデス・ルールが強く気高いロザンナを演じている。

原題は「ロザンナの墓」。

ほしい本は買いましょう！～本屋に無い本を買うにはどうしたらいい？～

「図書館にあったお菓子の作り方の本、とってもいい本でわかりやすく写真もきれい。本屋で探してみただけ置いてなかった。ずっと自分で持っていたいし…。いいよね、もらっちゃっても、1冊くらい。図書館には他にもたくさん本あるし。ごめん。だまって持っていくまーす。」というそのあなた！ちょっと待って下さい！図書館の本は持っていったマイブックにするものではありません。それは泥棒ですよ。

図書館の本は全学生、そして自分達の後に入學する後輩達がずっと勉強や調べものができるように用意された本です。あなたがその本を盗んでしまうと、他の人たちからその本と出会うチャンスをうばってしまっているのです。図書館の本を盗まないで下さい。大好きな本はぜひ買って下さい。好きな本を手元において、いつでも好きなときに読んだりながめたりできるのはとっても楽しいですよ。

本を注文して買う方法

本屋さんで買いたいと思っても、ほしい本が店頭置いていなかったり売切れていたりすることがよくあります。そんなときはぜひ注文して本を取寄せてもらってください。

名古屋の丸善、三省堂、紀伊国屋、マナハウスなどの大型書店なら出版元が品切れになっていなければ注文してから書店に届くまで2～3週間で届きます。もう少し時間はかかるかもしれませんが地元の本屋さんからももちろん注文できます。最近ではAmazon、Yahoo ブックスショッピングなどインターネットを使った本やCDの販売、クロネコを使った本のお取寄せクロネコヤマトのブックサービスなどもあり、こちらはかなり早く手に入ります。

本を注文する時には

書名(本のタイトル)、著者名(その本を書いた人の名前)、出版社名、をまず確かめてください。もし分れば、出版年、価格、シリーズ名もあればもっと間違ありません。同じ書名の本でも装丁や挿絵や本の大きさあるいは翻訳する人がいく通りも違っていることがあります。

ここ20年くらいの間に発行された本のほとんどにはISBNという本の識別番号がついています。これを控えておけばもっと正確です。裏表紙に印刷してあることが多いです。例 ISBN 4-10-610003-7 (養老孟司 バカの壁 新潮新書 2003年発行 680円)。ぜひ欲しい本を買ってみてください。